



ハッピーリリー 岡村通信

Yuriko Okamura

埼玉県議会
無所属
県民会議



埼玉県マスコット
「コバトン」



川口市のマスコット
「きゅほりん」

発行責任者

無所属県民会議川口支部岡村ゆり子

〒332-0031

埼玉県川口市青木2-9-26アオキビル2F

048-229-0530

vol.67 2025.6

いつもありがとうございます。埼玉県議会定例会は2月・6月・9月・12月、年度に4回開会されます。6月定例会は6月12日～7月2日の予定となっています。県議会ホームページで本会議をご覧いただけます。関心を寄せていただけると嬉しいです。

さて、今号は埼玉県屋内50m水泳場の現場視察や朝日環境センターの再開時期についてなどご報告いたします。

埼玉県屋内50m水泳場建設現場を視察しました

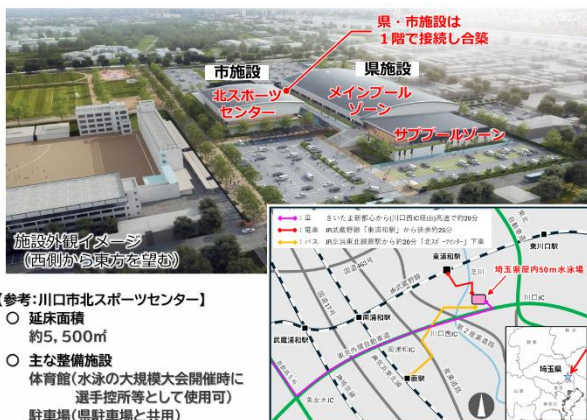
5月13日(火)に、大野埼玉知事と奥ノ木川口市長、川口市選出の県議会議員7名で神根運動場で建設工事が始まった屋内50m水泳場建設現場を視察しました。

建設中の水泳場は、アスリートの競技力向上やスポーツ振興を目的に建てられる施設で、公営の屋内50m水泳場は県内で初めてです。トップアスリートが集まる国内の主要な大会を開催するため、メインの50mプールには好タイムが出るとされるステンレス製の「ミルタプール」を導入するほか、およそ3000席の観客席が設けられます。

施工業者から、「今のところ遅滞なく進んでおり、令和9年3月に建設工事を終える」とご説明がありました。大会時以外は県民・市民の皆さんに広くご利用いただける使い勝手の良い施設になるよう働きかけてまいります。

施設概要

- 所在地
埼玉県川口市
川口西1Cから約2.4km
JR武蔵野線 東浦和駅から徒歩約25分
- 事業敷地
約24,000㎡
- 延床面積
約16,000㎡ (地上2階・地下1階)
- プール
・メインプールゾーン
50mプール(10レーン)、飛込プール
観客席 約3,000席
・サブプールゾーン
25mプール(10レーン)
※全てのプールが可動床により水深調節可能
- 整備スケジュール
令和6～8年度 設計・建設
令和9年7月 開業



特徴

① 50mメインプール



トップアスリートが集まる国内主要大会を開催するため、日本水泳連盟推薦の「ミルタプール」を導入

② 25mサブプール

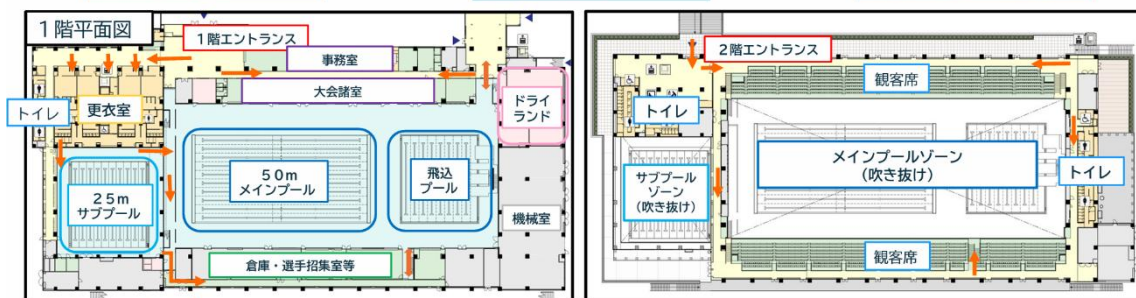


50mメインプールにおいて県大会等の中小規模大会の開催時にも同時に一般利用が可能

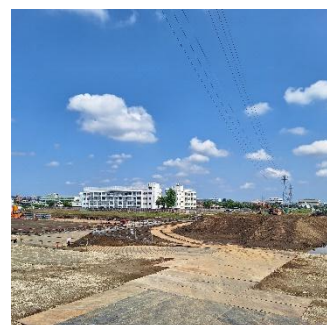
③ ドライランド



国内最大規模の広さ(約450㎡)で、飛込用の練習器具に加えて飛込競技以外でも使えるトレーニング器具を配置



※ 施設内動線



朝日環境センターについて

1月3日に発生した火災で稼働を停止している朝日環境センターの再開時期は**10月1日**になると市から発表されました。併せて、今回の火災に伴う施設復旧や他自治体などへのごみ処理委託費などの総額は、**約67億4千万円**になることが明らかとなりました。(5月14日作成時現在)

施設の被害調査を行ったところ、大梁や柱の構造躯体への影響がなかったことから、建築構造物補修工事の工期が短縮できることになり、当初より再開時期が前倒しとなりました。

発火の可能性があるリチウムイオン電池について、全国的に処分方法のさらなる周知啓発を進めるべきと思い、会派の政策調査会長として国に対し「**リチウムイオン電池の適正処理の推進を求める意見書**」を作成し審査を求めたのですが、埼玉県議会最大会派の賛成を得られず、2月定例会で提出することができませんでした。再度6月定例会で審査を求めたいと思います。



現場を知るべく積極的に視察しています



所属会派・無所属県民会議としても個人としても、先進的な取り組みを調査するための視察や県の事業がしっかり行われているか現場確認のための視察、力を入れている政策の視察など積極的に行っています。昨年度は30を超える県内外の自治体に行き、学びを深めました。直接見て、聞いて、調べることにより政策として提案しやすくなりますし、新たな気づきや推し進めているべきか否かを考えることにも繋がります。

今年度はすでに3事業について視察いたしました。(5月14日作成時現在)

1 大分県社会福祉事業団の共生型サービス施設「八つ星の丘」・親なきあと支援事業 4月15日

川口市内の就労支援施設の方や障がいのあるお子さんがいらっしゃる保護者の方から、「親なきあとの子どもが生活していけるのか...」「自分も高齢となり、一緒に入ることの施設があれば...」などお話をいただくことがよくありました。必要性を感じており、これまで調査を進めてきました。

先進的な施設として大分県社会福祉事業団が行っている「八つ星の丘」に行ってきました。高齢者と障がい者の共生型サービスを行っており、同じ建物内で生活されています。親子で入居されている方もいらっしゃいます。親が亡くなってしまった後も同じ施設で暮らすことができるため、大きな環境の変化に馴染めないということがないそうです。このような施設設置が進まない要因のひとつに、高齢者施設と障がい者施設の許可の壁があるのですが、施設内を見学し、やり方を工夫することによりできないことはないと感じました。

そして、親なきあと支援事業は、相談員を育成し、相談室を県内6ヶ所設置。今後大分モデルとして全国に広がっていくそうです。

まずは相談できる場所があり、課題解決に向けて専門家に繋いでもらえることは安心に繋がります。お子さんの年齢に関わらず相談されている実績を見ると、少しでも不安を解消できるような体制を埼玉県でも整えていくべきと感じました。

2 きょうと生物多様性センター 4月30日

京都府と京都市は、生物多様性保全に向けた取組の一層の促進を図るため、府市協調で「きょうと生物多様性センター」を令和5年4月に設立しました。

収集・利活用・継承の3本柱とし取り組みを進めています。民間企業との連携や担い手の育成に大変力を入れており、パートナーシップ協定制度やいきものフェスなど興味深い取り組みがいくつもありました。今後に生かしていきます。



3 大阪府豊中市にて「朝の小1の壁」事業 5月1日

「朝の小1の壁」事業とは、午前7時から小学校に登校できるように体制を整えるもので、埼玉県でも今年度よりモデル事業として志木市の一部と毛呂山町の一部で始まるものです。

保育所に預けていた時間より登校時間が遅くなるため、これまで8時開門前に多くの児童が校門前で待機していたそうです。

共働きや女性の社会進出が進むなかで、子育てしやすい環境づくりを進めるべく、豊中市では全国に先駆けて昨年より市内全小学校で朝7時に校門を解放し、民間見守り員2名を配置し、体育館等でタブレットや読書、トランプなど自由に過ごす取り組みを始めました。事前登録者数に比べ利用者が少ない状況ではありますが、不測の事態に備え登録者は増加しており、セーフティネットになっているとのことでした。

費用対効果はどうか、利用者が全くない学校はどのようにしていくのか、見守り員の確保、利用しやすい体制をどのようにつくっていくかなど感じました。埼玉県のモデル事業を注視していきたいと思います。

